【小川町地域公共交通活性化協議会　第２回】

資料１

路線バスの維持・充実に関する検討
～実態調査について～

平成 30 年 11 月 15 日

１．H30 年度の協議会・分科会等の振り返り

H30 年度に開催した地域公共交通活性化協議会（１回）及び分科会（２回）等における検討経過は以下のとおりです。

（H30 年度の経過の振り返り）

第１回分科会
４月
第１回協議会
５月

H30 年度事業計画について

「デマンドタクシーの利用実績に基づく分析」
「路線バスの維持・充実に向けた具体的な検討」
を実施することを承認

第２回
分科会
８　月

路線バスの維持・充実に向けた検討について

路線バスの維持・充実に向けた検討を、以下のとおり進めることを確認

- **路線バスの維持・充実に向けた検討は、具体的な取組が実施されておらず、検討の優先度が高い２路線（みどりが丘路線、熊谷路線）に対象を絞り実施していく。**
- **公共交通定期券への補助・免許返納者割引制度等の様々な実現手法の検討を行うこととなるが、検討にあたっては、詳細な利用実態を把握することが重要となるため、平成 30 年度については、具体的な取組として実態調査を実施する。**

実態調査結果等に基づき路線ごとの課題を明確にし、
次年度以降の解決方策検討につなげていくことを年度の目標とする

第３回
分科会
１０月

実態調査について

調査内容等の検討

実態調査の実施

２．実態調査の進め方

みどりが丘路線の実態調査は、以下の流れで実施します。

（実態調査の進め方フロー）

第３回
分科会
１０月

① 把握すべき事項の整理

実態調査の下準備として・・・

「維持・充実に向けた具体的な取組」
「それを進める上で把握しておくべき事項」
の２点を整理　＝ 調査内容の整理

② 調査票の作成

①の把握すべき事項をそれぞれ適した調査に振り分け
調査票を作成

- 沿線住民を対象としたアンケート調査
- バス事業者提供データを用いた調査
- バス事業者との協働による調査

１１月

③ 調査実施

配布、回収、集計

第４回
分科会
２　月

④ 結果まとめ

結果まとめ、路線の課題まとめ

沿線住民への結果報告

３．維持充実に向けた取組イメージと把握しておくべき事項

実態調査の下準備として、バス路線の維持・充実に向けた具体的な取組イメージと、取組を進める上で把握しておくべき事項を、以下のとおり整理しました。

（対応策としての取組イメージ）

対応策	具体的な取組イメージ	取組を進める上で把握しておくべきこと
沿線への居住誘導 団地の世代構成バランスの改善 都市構造の見直し	◆バス路線の維持・充実 ・立地適正化計画等の誘導手法を用いた公共交通沿線地域への居住誘導（不便地域の高齢者の住み替え、子育て世代の近居促進　等）　など	◆
路線の見直し	◆バス路線の維持・充実 ・需要の多い目的地を含むルートへの変更 （例）日赤病院までの延伸 パークヒル路線への乗継抵抗軽減による日赤病院までのアクセス強化 （例）団地内走行ルートの変更 （地域と事業者の協働による検討・変更、維持体制の構築）　など	◆需要の多い発着地・世代等の属性の把握 ◆協働による検討の実現可能性（サービス水準低下が見込まれることへの危機感の有無、検討への参画意思）
路線バス利用率の向上	◆乗継割引、高齢者割引、免許返納者割引の導入 ◆路線バス車両のバリアフリー化 ◆バス停留所の機能充実 ・未利用地を活用した駐輪場の整備等 ◆小川町駅周辺の整備（南口駅前広場の整備、北口開設・駅前広場等の整備検討） ◆商業施設等との連携による利用促進（商店とタイアップした割引サービス導入等） ◆利用促進イベントの実施 ◆町民への周知・利用促進のための情報ツール作製 ◆小中学校、行政区、民間事業者等の単位での周知・利用促進	◆バス利用の障壁となっている要素と、今後の利用可能性 ・停留所までのアクセス ・停留所での待ち時間 ・停留所の待合環境 ・利用料金 ・目的地のミスマッチ ・所要時間 ・時刻の調べ方や利用方法がわからない ・自家用車を利用する生活習慣、意識

４．アンケート実施概要

■ 対　象

みどりが丘地域の全世帯（１，３９４世帯）

※各世帯１枚配布し、世帯の中で公共交通をよく利用する方に回答を依頼

回収率６０%⇒８３６、回収率５０%⇒６９７

【参考】必要標本数：信頼度９５%⇒７３１、信頼度９０%⇒６１２

■ 配布・回収方法

自治会へ依頼（広報・回覧と同時に配布、各班長宅に各自持参してもらい回収）

■ 実施時期

Ｈ３０年１１月

■ アンケート内容

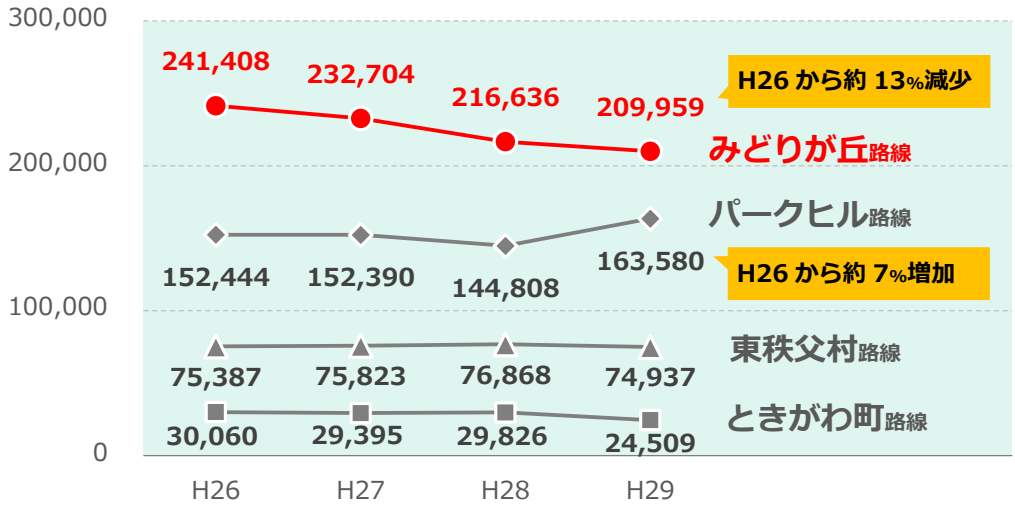
・回答しやすいよう、なるべく少ない設問数で設計

・路線利用者数の推移等の実態を伝えた上で回答してもらう

設　問	選択肢
１．属性（年代、免許の有無、自ら移動可能な手段の有無）	
２．「買物」「通院」「その他私事」で最もよく行く目的地と移動手段 ※バスの場合乗降停留所	目的地 ①小川町駅周辺　②みどりが丘地内　③その他 移動手段 ①自家用車・家族の送迎　②バス　③タクシー ④デマンドタクシー ⑤徒歩・自転車 ⑥その他
３．どんな場合にバスを利用するか	①通勤通学　②買物通院　③私事 ④イベント時　⑤町外に行く時　⑥その他
４．バス利用の障壁になっているもの	①停留所までのアクセス ②停留所での待ち時間 ③停留所の待合環境 ④利用料金 ⑤所要時間 ⑥目的地のミスマッチ ⑦時刻の調べ方や利用方法がわからない ⑧その他
５．バス利用者が減少しており、今後も減少が続くことでサービス低下や廃止が懸念されることに対する感想	①無くては困るため、なるべく守りたい ②自分は利用しないが学生や高齢者等のために必要 ③バスが無くなっても困らない ④その他

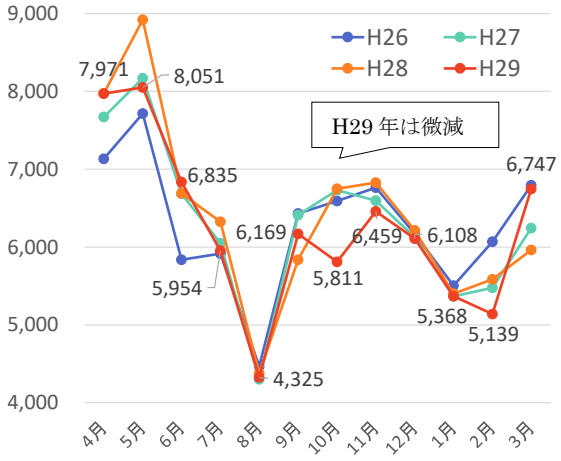
■参考：利用者数の推移状況　－平成 26 年度～平成 29 年度－

（年間利用者数の推移　４路線）

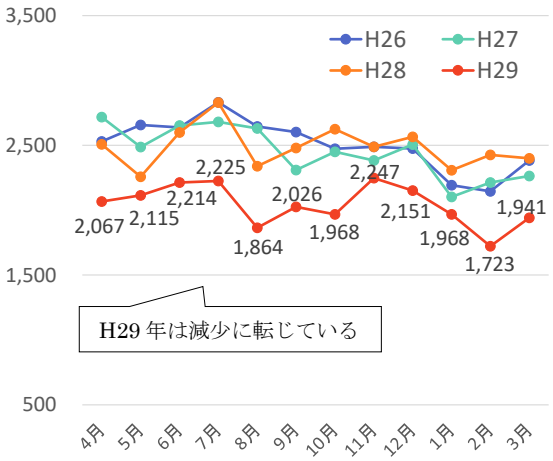


（月別利用者数の推移）

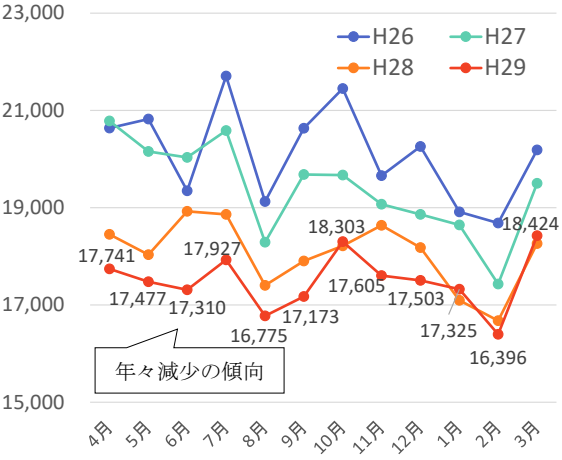
東秩父村路線



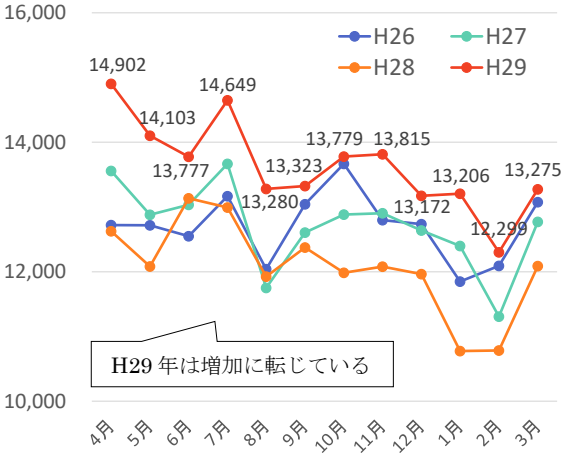
ときがわ町路線



みどりが丘路線

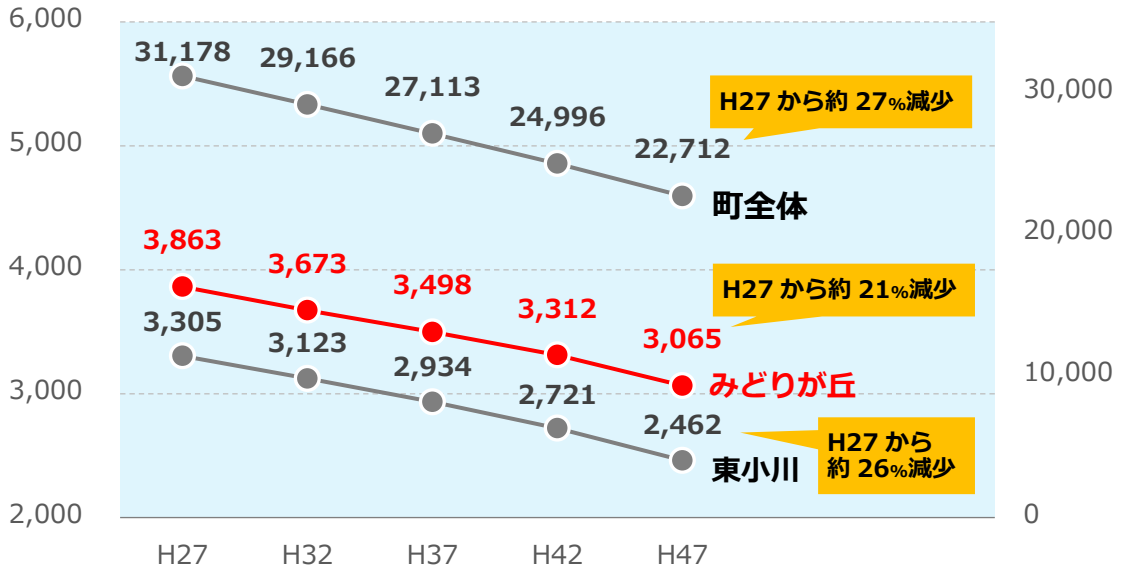


パークヒル路線

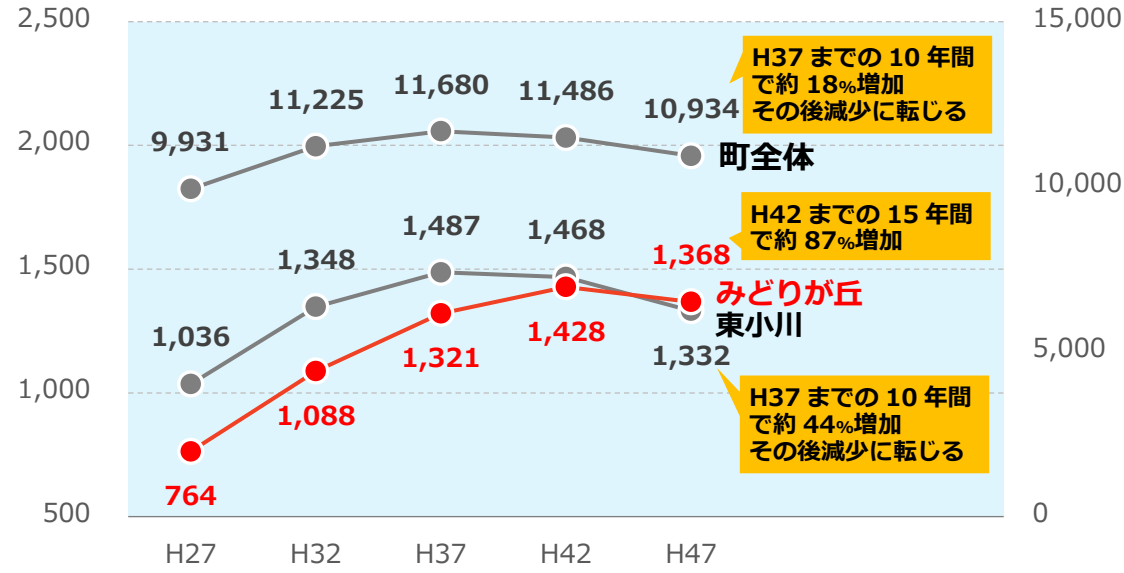


■参考：沿線の将来人口予測　－平成 27 年～平成 47 年－

（総人口）



（高齢者人口）



出典：H29 年度コンパクトシティ形成に向けた基礎調査業務委託報告書

※国勢調査（H27）、日本の地域別将来推計人口（H30 年 3 月、国立社会保障・人口問題研究所）を基にした推計